

国内線旅客ターミナル地域再編事業について

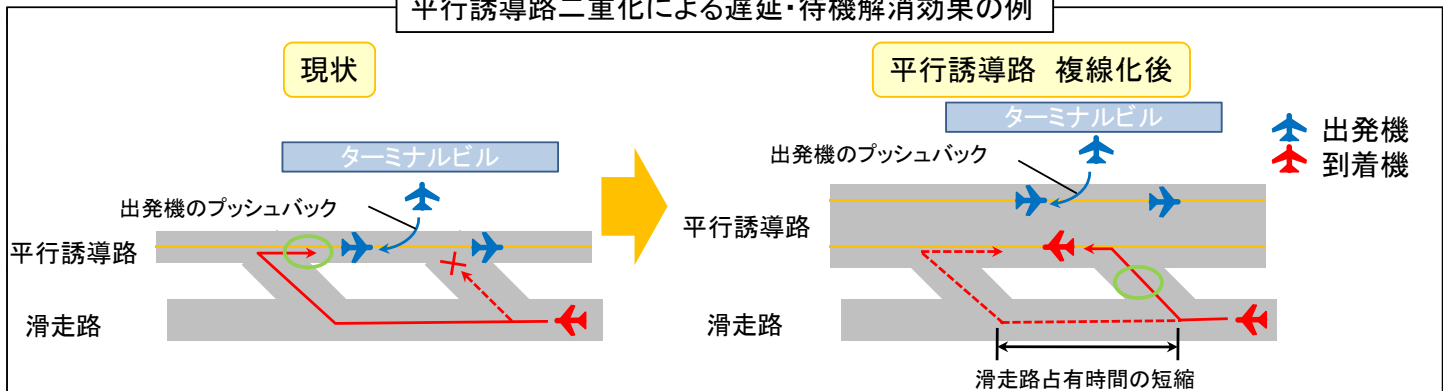
資料4

- 福岡空港は国内線側の平行誘導路が1本しかなく、混雑時に出発機と到着機との輻輳に伴う遅延・待機が慢性的に発生している。
- 他方、国内線旅客ターミナルビルについては、建設後30~40年以上が経過しており、施設の老朽化・狭隘化への対応が急務となっている。
- こうした喫緊の課題に対応するため、24年度より航空機の遅延・待機解消方策となる平行誘導路の二重化整備及びこれに伴う国内線旅客ターミナルビル等諸施設の移転整備に着手する。



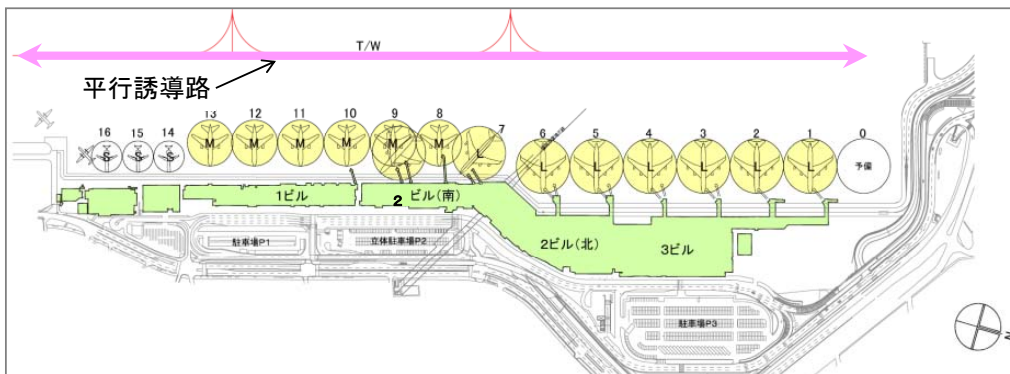
エプロン誘導路の混雑状況

平行誘導路二重化による遅延・待機解消効果の例



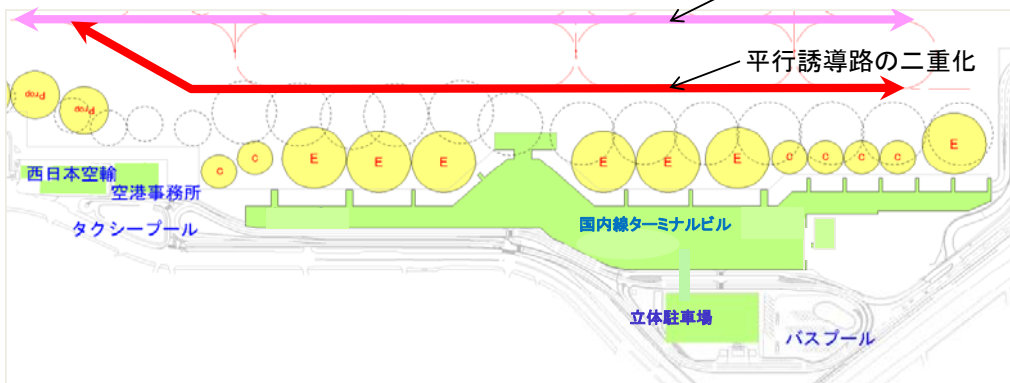
国内線旅客ターミナル地域再編事業(イメージ図)

【現】国内線旅客ターミナル地域



滑走路処理容量
32回/時 | **約14.5万回/年**
(時間当り代表値) | (398回/日)に相当

【計画】国内線旅客ターミナル地域



平行誘導路二重化後
+約4000回/年

滑走路処理容量
33回/時 | **約14.9万回/年**
(時間当り代表値) | (409回/日)に相当